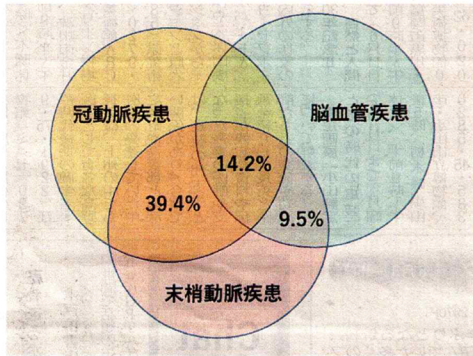


異なる臓器における血管疾患の重複



出典は米国心臓病学会雑誌2005年第45号

⑩ 末梢動脈疾患があると...

人生100年時代の健康管理

桐生大学桐生学舎臨床医師 山科 章



【プロフィール】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科大学循環器内科主任教授。2020年から現職。総合内科専門医、日本循環器学会専門医、元日本循環器病予防学会理事長。

前回は、坂とふと、トコで間欠性跛行はくらはが痛くなまこ。こについて、明しせんか。というスライ、ま。

間欠性跛行とは一定距離を歩くとくらくら、さかになるさ、痛み、が起こて歩行が困難になり、休憩すると足がまるもの、また歩くと皮膚に潰瘍や壊死(えし、壊疽(えそ)が

り返す状態です。主な原因には神経性と血管性があるが、血管性は末梢まっしよ動脈硬化によるものであり、その原因のほとんどは動脈硬化で、下肢(しげ)により、歩行時に下肢の筋肉が酸欠状態になるためと説明しました。

できる場合もあります。問題点は間欠性跛行がある時点で、すでに心臓や脳を含む全身の動脈に何らかの变化が起こっていることです。末梢動脈疾患と冠動脈疾患・脳血管疾患が重複する割合を示したものです。末梢動脈疾患があると60%以上で狭心症・心筋梗塞や脳梗塞などを合併して重要な病気を合併しているのです。足に潰瘍や壊疽などのある重症の末梢動脈疾患は5年生存率が40%程度と低く、胃や

保健・福祉

大腸の進行がより悪いので、足の病気が死因となることは少ないです。足の病気が起こるとは少な、く心筋梗塞・脳梗塞・肺炎(びん)の病気が起こります。末梢動脈疾患は誰にも起こりうる病気です。日本人の60歳以上の3・4%にあていわれています。リスク因子は前回も紹介したように、加齢(60歳以上)、喫煙、糖尿病、高血圧、脂質異常症、慢性腎臓病(透析)、メタボリックシンドロームなどですが、特に喫煙・糖尿病では発症率が4倍高いので要注意です。65歳以上の糖尿病患者では10・15%に末梢動脈疾患があると報告されています。診断では、それい部の(足の付け根や足の)動脈の拍動をみます。触れて、い場合や左右の足で触れ方差がある場合は病気が疑われます。両側の上腕と両側の足首の血圧を同時に測って、足の血圧が低い場合や左右で差があるときは強く疑われます。下の超音波検査や造影CTやMRIなどを行って診断します。

前回、紹介したような症状がある人は、受診して診断を受けると同時に、生活習慣を見直しまよ。

※次回も「もう一つの」間欠性跛行です。

◆毎週月曜連載 桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部の学生などに講義も開講している。